

週刊 タバコの正体

他人のタバコの煙を吸わされるのが受動喫煙です。特に火の着いたタバコの先端から立ち上る「副流煙」には有害な成分が多く含まれている事はすでに紹介しましたね。それは、喫煙者が吸い込む「主流煙」に比べ、燃焼温度が低く不完全燃焼の煙だからでした。

ところで、現実の受動喫煙は下図に示すように、喫煙者の吐き出す「呼出煙」をも吸わされています。例えば、外でタバコを吸ってきたばかりの人の息からは、タバコを手を持っていないで白い煙も見えないのにタバコのニオイがしますからね。

さて、受動喫煙が原因で病気になる事があります。それどころかそのために死亡するケースもあります。下の表を見てください。約10年前のデータですが、受動喫煙が原因で年間6803人も亡くなっていますが、なんと同じ年の交通事故で亡くなった人より多いのです。ちょっとビックリしませんか。つまり、受動喫煙は交通事故より危険だと言えるのです。

その病気の多くが肺がんと虚血性心疾患(心臓の病気)なのですが、良く見ると家庭における女性の死亡者が圧倒的に多くなっています。これは夫の喫煙で妻が長年受動喫煙を受け続けた結果ではないかと想像できます。



平成20年度 受動喫煙による推計死亡者数(合計6,803人)
(平成20年の交通事故による死亡者は、全国で5,155人)

私たちの日常生活のほとんどを過ごす家庭と職場に喫煙者が多いと、ほんの少しの受動喫煙でも、何十年も毎日吸わされることになります。

吸う人も吸わない人も、受動喫煙には、交通事故以上に気を使う必要があると思います。

産業デザイン科 奥田 恭久

受動喫煙の場所	疾患	受動喫煙起因年間死亡数		
		男性	女性	合計
家庭	肺がん	201	1,131	1,332
	虚血性心疾患	206	1,640	1,846
職場	肺がん	448	340	788
	虚血性心疾患	1,366	1,471	2,837
合計		2,221	4,582	6,803